

中国で広がる謎の病気

Mysterious disease spreads in China

農民の原因不明の死と鳥インフルエンザとは関係があるのだろうか。

doi:10.1038/news050725-1/25 July 2005
Declan Butler

新華社通信が7月24日に伝えたところによると、それまでの1か月間に、中国南西部で未知の病気によって少なくとも17人が死亡し、41人の感染者が出ているという。病気の原因はまだわかっていないが、症状はインフルエンザに似ており、四川省資陽市および内江市の近郊の町で、家畜から農民へと広がっているとみられる。

世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務所（フィリピン・マニラ）の広報担当 Bob Dietz は「まだ診断はついていない。中国による調査が行われており、現地での診断結果を待ちたい」と語る。また「鳥インフルエンザや SARS（重症急性呼吸器症候群）を含むさまざまな病気の可能性が考えられるが、率直なところ、病気の原因を特定できない場合のことを心配している」と話す。

今回のような動物との関連が考えられる唐突で原因不明の死というのは珍しく、中国は救急隊を派遣して鳥インフルエンザとの関係を調査している。ただし「今回、病気の発生地域があちこちに分散していたにもかかわらず、比較的迅速に病気が把握され公表されたことは評価できる」と Dietz は話す。

同氏は、この問題が4週間以内に検知されたことについて「そう悪くはない」とし、同じことが起きれば、ニューヨークのような都市でも検知に2週間かかってもおかしくないと付け加える。そして、「中国は発生を公表し、われわれやメディアに知らせている。中国の監視システムがうまく機能しているということだ」と話す。

疑われる希少な病気

中国当局は疑われていた主要な病気のうち、いくつかの可能性は消えたと公言している。地元の衛生庁高官 Zeng Huajin は、「この病気は SARS でも炭



ブタは危険なウイルスを生み出す温床である。

疽病でも鳥インフルエンザでもない」と新華社に話している。Huajin は考えられる原因について、細菌 *Streptococcus suis* を挙げている。この細菌はブタに感染する主な病原体で、世界のほとんどの国で見受けられるものだ。英国健康保護局によればヒトへの感染はまれであり、全世界で過去150例足らずが報告されているにすぎないという。

S. suis に感染した患者には重度のインフルエンザに似た症状があらわれ、難聴をとまなう場合もある。新華社は今回の正体不明の病気について、症状は「高熱、疲労、嘔気および嘔吐、そのうち皮下の挫傷をとまなう昏睡状態」で、発病したのは罹患したブタまたはヒツジを屠殺した農民だったと伝えている。

一方、感染症の情報を提供する ProMED メーリングリストを通じ、研究者や医師たちは、今回の症状と、中国南部各地の家畜で局地的に流行しているクリミア-コンゴ出血熱（CCHF）との類似性を指摘している。CCHF はあまり聞かれないが重症の病気で、通常はダニが媒介し、死亡率が高い。ただしヒトからヒトには伝染しないため、ヒトに対する危険性は限定的と考えられる。

鳥に向けられる目

今回の病気についての診断が続けられるなか、研究者は依然として鳥インフルエンザの危険性を警告している。

今春、中国西部の青海湖にいた何千羽もの渡り鳥が H5N1 型の鳥インフルエンザに感染した。研究者はそこから鳥インフルエンザが広がる可能性を指摘する。WHO の研究者は渡り鳥が感染したウイルスについて、病原性の高い新たな H5N1 型であることを確認している¹。

ブタの体内では鳥インフルエンザウイルスとヒトインフルエンザウイルスの共存が可能であるため、そこで互いのウイルスの遺伝子が交換され、感染性のあるヒトウイルスが生まれることも考えられる。国立鳥インフルエンザ研究所（中国黒龍江省哈爾濱）の Hualan Chen 所長は「4月の時点で検査した中国のブタ450頭のうち、23%が病原性の高くない鳥インフルエンザウイルス H9N2 型をもっていた」と話す。

今なお WHO の担当者は、その他の鳥インフルエンザ発生地域への立ち入りを中国が認めるのを待っている。中国は、鳥インフルエンザに関する追加情報およびウイルス検体の要求にまだ応えていない。「それを得るのが急務課題だ」と、WHO 北京事務所の Julie Hall 調整官は語る。 ■

1. Chen H., et al. *Nature*, 436, 191-192 (2005).